

芸術家・マットさんとアレクサンドラさん

# 創作活動「素材」は松戸

木曜に交流会も

米国出身の映像作家マット・シエリタンさん(四四)と、ポーランド出身の現代美術家アレクサンドラ・ヴァワシエクさん(三〇)が松戸市に滞在して、街を「素材」に二カ月間の創作活動に取り組んでいる。

松戸駅周辺の自治会・町会ですつくる「松戸まちづくり会議」による芸術を生かした街づくりの一環。外国人芸術家が長期滞在して創作をする取り組みは、昨年に続き二度目。今回は世界六十五カ国から二百五十三件の応募があった。

マットさんは十五日、アレクサンドラさんは二十日にそれぞれ来日。松戸駅西口にあるビルの空き室を活用した滞在制作拠点「パラダイス・エア」で過ごしながら、住民とも交流し、創作活動をする。来年二月十一日に成果を披露する。

同会議が今回提案した創作テーマは「現在地」。マットさんは、街の屋内外の投影する場所に応じたアニ



松戸の印象などを話すアレクサンドラさん(中)とマットさん(左)＝松戸市で

メーションの創作と投影に取り組む。アレクサンドラさんは松戸のうわさや神話を集め、住民や街の写真を撮り、ネットで見られるマップなどを作る予定。

二十三日に二人の自己紹介イベントがあり、マットさんは「シャイな松戸の人たちの内面にエネルギーを感じた」、アレクサンドラさんは「松戸の街の色や建

物の構造、人と人のつながりに興味を持った」などと異郷での創作活動を楽しんでいた。

同会議は滞在期間の毎週木曜(一月一日除く)に二人と交流してもらおうと、西口の小さな倉庫を交流スペース「パラダイス・サロンの」としてオープンさせている。

(飯田克志)